

国際通貨研究所 デジタルミニウェビナー

「クロスボーダー送金効率化に向けた世界の潮流と今後の展望」

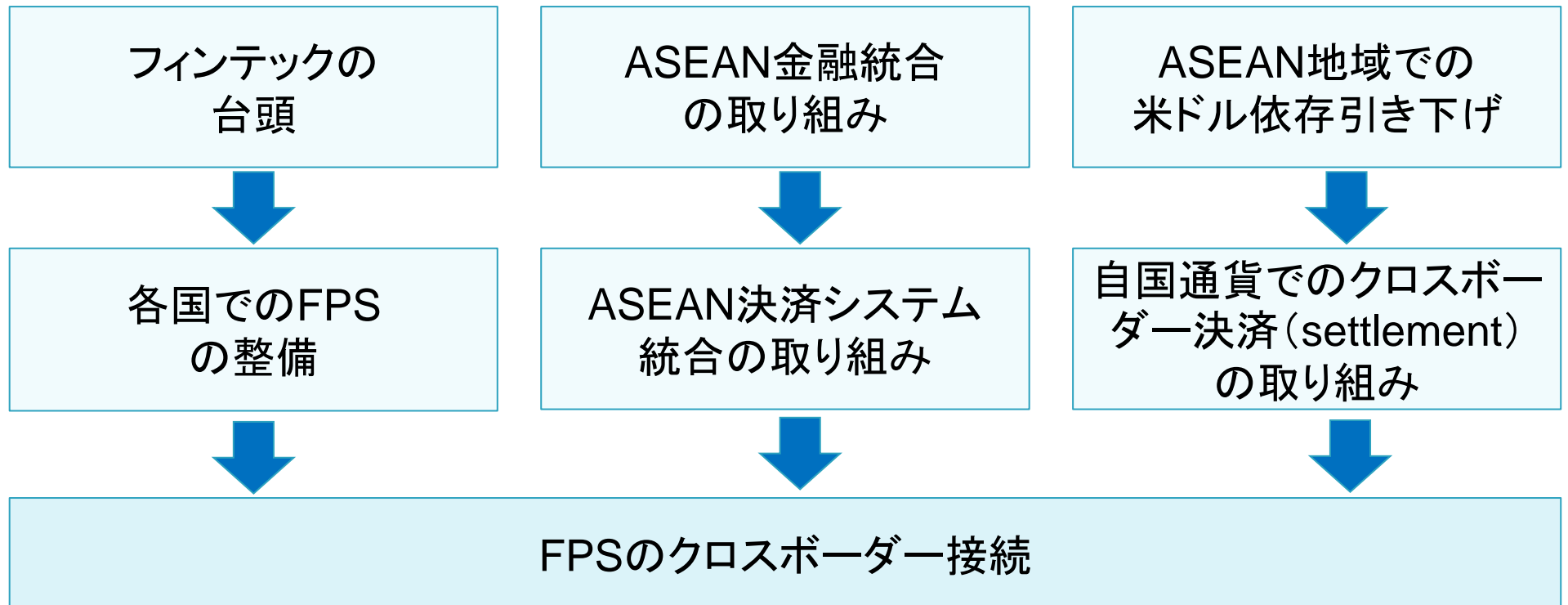
ASEAN・インドにおける FPSのクロスボーダー接続

2024年3月21日

(株)日本総合研究所
調査部
岩崎薫里

1. ASEANのFPSクロスボーダー接続の経緯

◆ 相互に関連する三つの流れがFPS(Fast Payment System)のクロスボーダー接続へ



1. ASEANのFPSクロスボーダー接続の経緯

◆ 政府主導でFPSを提供

- 24時間365日いつでも送金が可能
- 携帯電話番号宛て等で送金可能 ⇒ 詳細な銀行口座情報が不要
- QRコード決済でも利用可能
 - ・ 各国とも統一QRコード導入済み

		シンガポール	マレーシア	タイ	フィリピン	インドネシア	ベトナム
名称		PayNow	DuitNow	PromptPay	Instapay	Fast Payment (BI-FAST)	NAPAS FastFund 247
導入時期		個人:2017年7月 法人:2018年8月	2018年12月	2017年1月	2018年4月	2021年12月	2021年6月
統一QRコード		SGQR	DuitNow QR	Thai QR	QR Ph	QRIS	VietQR
送金先	携帯電話番号	○	○	○	○	○	○
	e-mailアドレス				○	○	
	個人ID	○	○	○			
	法人ID	○		○			
	バーチャルアドレス	○					
支払いリクエスト			○				

(資料)各国外銀ウェブサイトなどを基に日本総合研究所作成

1. ASEANのFPSクロスボーダー接続の経緯

◆ 提供の背景

- 個人：キャッシュレスで支払いたい
 - ・ クレジットカードが未普及
- 店舗：低コストでキャッシュレスを受け入れたい
- 銀行：新興フィンテック企業に対抗したい

1. ASEANのFPSクロスボーダー接続の経緯

◆ なぜ政府主導？

- **キャッシュレスの推進**
 - ・ 社会・経済のデジタル化、地下経済の縮小など

- **銀行口座保有率の引き上げ**
 - ・ 口座保有インセンティブとして

- **政府からの支払いの効率化**
 - ・ 給付金、税還付など

- **金融取引の把握**
 - ・ フィンテック台頭への対応

1. ASEANのFPSクロスボーダー接続の経緯

◆ FPSクロスボーダー接続の取り組みまでの経緯

1997年3月	ASEAN加盟国財務相、ASEAN経済統合の目標実現に向けた金融分野での協力の重要性を表明	金融統合
2003年8月	ASEAN加盟国財務相、「Roadmap for Monetary and Financial Integration of ASEAN (RIA-Fin)」合意	
2010年4月	ASEAN加盟国中銀、「Working Committee on Payment and Settlement Systems (WC-PSS)」設立	決済システム統合
2011年4月	ASEAN加盟国中銀総裁、「ASEAN Financial Integration Framework (AFIF)」採択	
2016年4月	ASEAN加盟国財務相・中銀総裁、「AEC 2025 Strategic Action Plans for Financial Integration from 2016-2025」採択	決済システム統合 決済システムの相互接続
2019年4月	ASEAN加盟国財務相・中銀総裁、WC-PSSによる「ASEAN Payments Policy Framework for Cross-Border Real-Time Retail Payments within the ASEAN Region (Framework)」承認	
2022年11月	ASEAN5カ国中銀、「Cooperation in Regional Payment Connectivity (RPC)」でMOU締結(インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ)	FPSのクロスボーダー接続
2023年5月	ASEAN加盟国首脳、「ASEAN Leaders Declaration on Advancing Regional Payment Connectivity and Promoting Local Currency Transaction」採択	
2023年8月	ベトナム中銀、RPCに参加、6カ国へ	自国通貨取引

(資料)各種公表資料を基に日本総合研究所作成

2. ASEANのFPSクロスボーダー接続の状況

◆ QRコード決済の相互受け入れ

		海外でのQRコード決済受入状況						
		シンガポール	マレーシア	タイ	インドネシア	フィリピン	ベトナム	
		NETS QR	DuitNow QR	PromptPay QR	QRIS	QRPh	VietQR	
即時送金システム	シンガポール	PayNow		○	○	○	(準備中)	
	マレーシア	DuitNow	○		○	○	(準備中)	
	タイ	PromptPay	○	○		○		○
	インドネシア	BI-FAST	○	○	○		(準備中)	
	フィリピン	InstaPay	(準備中)	(準備中)		(準備中)		
	ベトナム	NAPAS FastFund 247			○			

(資料)各種ニュースリリース・報道記事を基に日本総合研究所作成

2. ASEANのFPSクロスボーダー接続の状況

◆ クロスボーダー送金

		即時送金システム						
		シンガポール	マレーシア	タイ	インドネシア	フィリピン	ベトナム	
		PayNow	DuitNow	PromptPay	BI-FAST	InstaPay	NAPAS FastFund 247	
即時送金システム	シンガポール	PayNow		○	○			
	マレーシア	DuitNow	○					
	タイ	PromptPay	○					
	インドネシア	BI-FAST						
	フィリピン	InstaPay						
	ベトナム	NAPAS FastFund 247						

(資料) 各種ニュースリリース・報道記事を基に日本総合研究所作成

2. ASEANのFPSクロスボーダー接続の状況

◆ PayNow(シンガポール)とPromptPay(タイ)の相互接続での挑戦

- 技術・システムの違い
 - それ以上に、法規制・ルールの違い
- } にどう対応するか

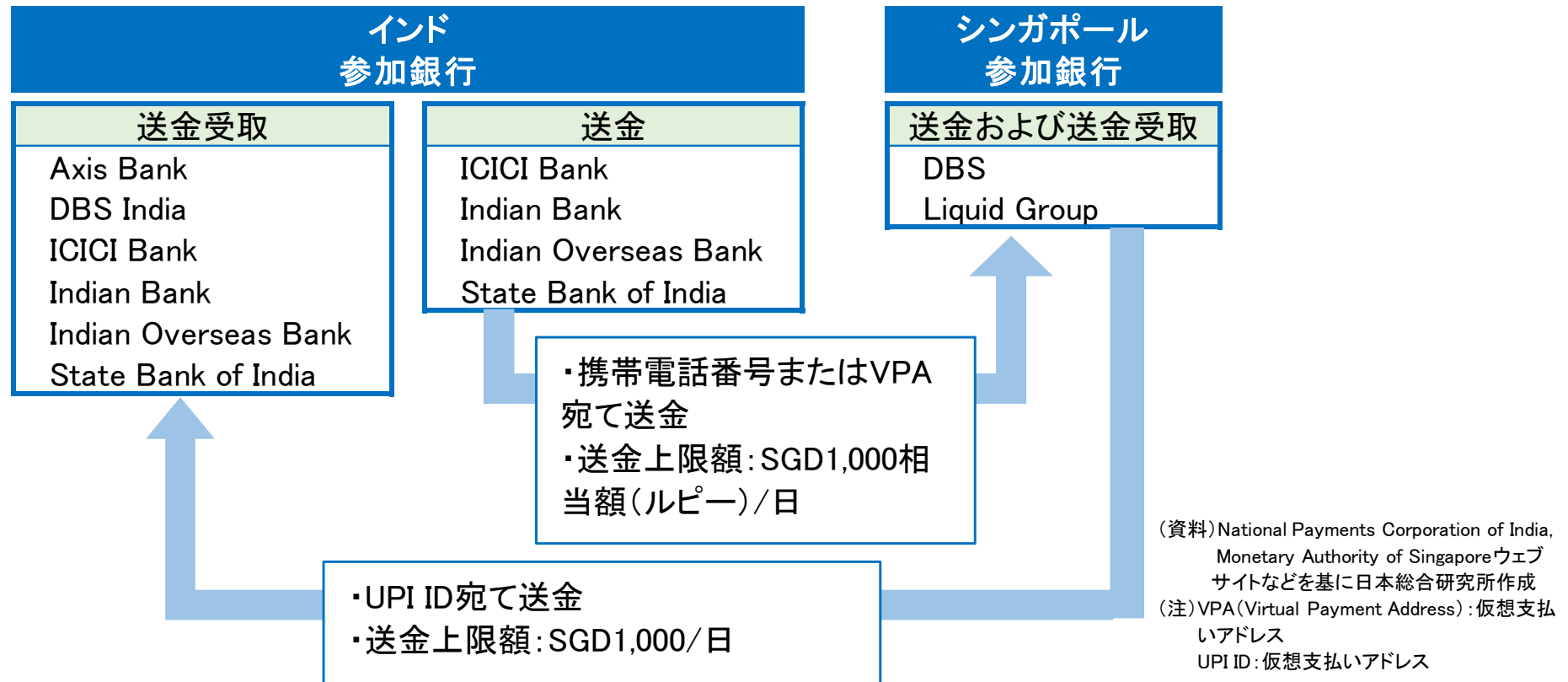
FPSクロスボーダー接続を成功させるためのポイント

強固なガバナンス体制	すべての関係者が連携し、強固なガバナンスとプロジェクト管理体制を構築
柔軟性のある技術標準化	両国のさまざまなニーズはもとより、今後の予期せぬ事態にも対応可能に
国ごとに異なる法規制への対応	各国の法規制やその運用方法を尊重した対応を目指す
システムテストの徹底	時間を要するものの、円滑な運営に不可欠
両国の連携に基づく法的枠組みの構築	持続可能な運営のために、ガバナンス、債務、紛争処理などのルールについて両国で合意

(資料)World Economic Forum, “Shaping the Future of Cross-border Fast Payment Systems: Revolutionizing Transactions in South-East Asia”, Briefing Paper, November 2023

2. ASEANのFPSクロスボーダー接続の状況

- ◆ ASEANのFPSのクロスボーダー展開は域外へも
⇒ PayNow(シンガポール)とUPI(インド)の相互接続



3. インドのFPSクロスボーダー接続

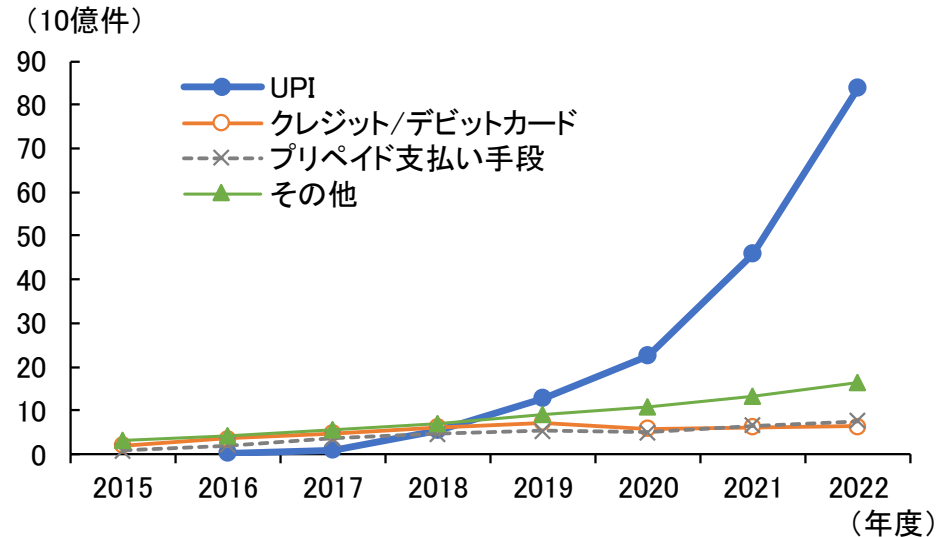
◆ UPIはインドのキャッシュレスを牽引

正式名称	統合決済インターフェース (Unified Payments Interface)
概要	モバイル端末を活用した24時間365日利用可能な即時送金システム
目的	利便性の高い即時送金の提供により、電子決済を促進
導入時期	2016年4月
開発・運営主体	インド決済公社 (NPCI)
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 24時間365日いつでもモバイル端末で即時送金が可能 ・ 一つのモバイルアプリで異なる銀行間の送金も可能 ・ 二要素認証(注)がワンクリックで完了 ・ 「支払う(プッシュ)」と「支払いリクエスト(プル)」の両機能 ・ バーチャルアドレス宛て送金が可能なため口座番号の開示が不要 ・ 「UPI Autopay」機能により、自分の銀行口座から相手の銀行口座に定期的に自動送金を行うことが可能 ・ QRコードと組み合わせることで、リアル店舗の店頭での支払いに利用可能 ・ 送金手数料および加盟店手数料が原則無料

(資料) National Payments Corporation of India (NPCI)ウェブサイト

(注) 二要素認証: 性質の異なる二つの要素を組み合わせる認証方法。

インドのリテール決済件数



(資料) Reserve Bank of India, "Payment System Indicators" 各号

(注1) 年度は4月～翌年3月。

(注2) UPI (Unified Payments Interface) は2016年に導入。

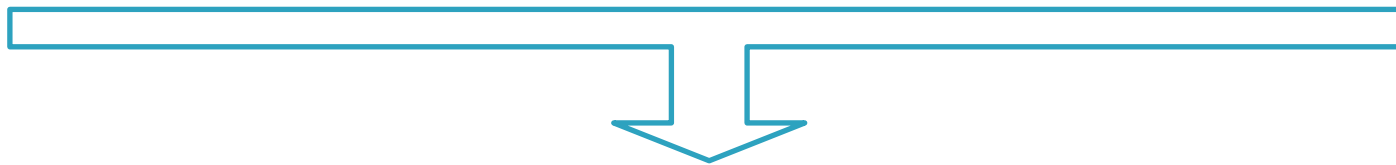
(注3) 「その他」には、NEFT (全国電子送金)、IMPS (即時決済サービス)、NACH (全国自動決済機関)、RTGS (即時グロス決済) などが含まれる。

3. インドのFPSクロスボーダー接続

◆ UPIのインド国内での成功を受けて海外展開へ

◆ 目的

- ◎ インド人海外旅行者の利便性向上
- ◎ 海外在住インド人(出稼ぎ労働者等)の利便性向上
- ◎ 国際貢献



- 当該国との経済取引の活発化
- 国際社会におけるインドのプレゼンス向上

3. インドのFPSクロスボーダー接続

◆ UPIのグローバル展開の一環として海外のFPSと相互接続

発表年月	対象国	提携先	主な提携内容
＜UPIシステムの海外での導入支援＞			
＜UPI QRコード決済の海外での受け入れ＞			
＜海外からインドへの国際UPI送金＞			
＜海外在住インド人によるUPIサービスの利用＞			
＜UPIと海外のFPSとの相互接続＞			
2021年9月	シンガポール	Monetary Authority of Singapore (中銀)	＜RBI・MAS間＞UPIとPayNowの相互接続 (2023年2月稼働開始)
2022年3月	アラブ地域	Arab Monetary Fund(アラブ通貨基金、アラブ連盟の下部組織)	＜NIPL・AMF間＞UPIとBuna(AMF傘下の越境決済システム)の相互接続
2023年7月	UAE	Central Bank of UAE(中銀)	＜RBI・CBUAE間＞UPIとAani(即時送金システム)の相互接続
2024年2月	ネパール	Nepal Rastra Bank(中銀)	＜RBI・NRB間＞UPIとNPI(National Payment Interface、即時送金システム)の相互接続

(資料)各種報道などを基に日本総合研究所作成

(注)RBI(Reserve Bank of India):インド準備銀行(中央銀行)

NIPL(NPCI International Payments Limited):NPCI(National Payments Corporation of India、インド決済公社)傘下の子会社で、UPIおよびRuPay(カード決済ブランド)の海外展開を主目的に2020年に設立。なお、UPI、RuPayともNPCIが管理・運営。

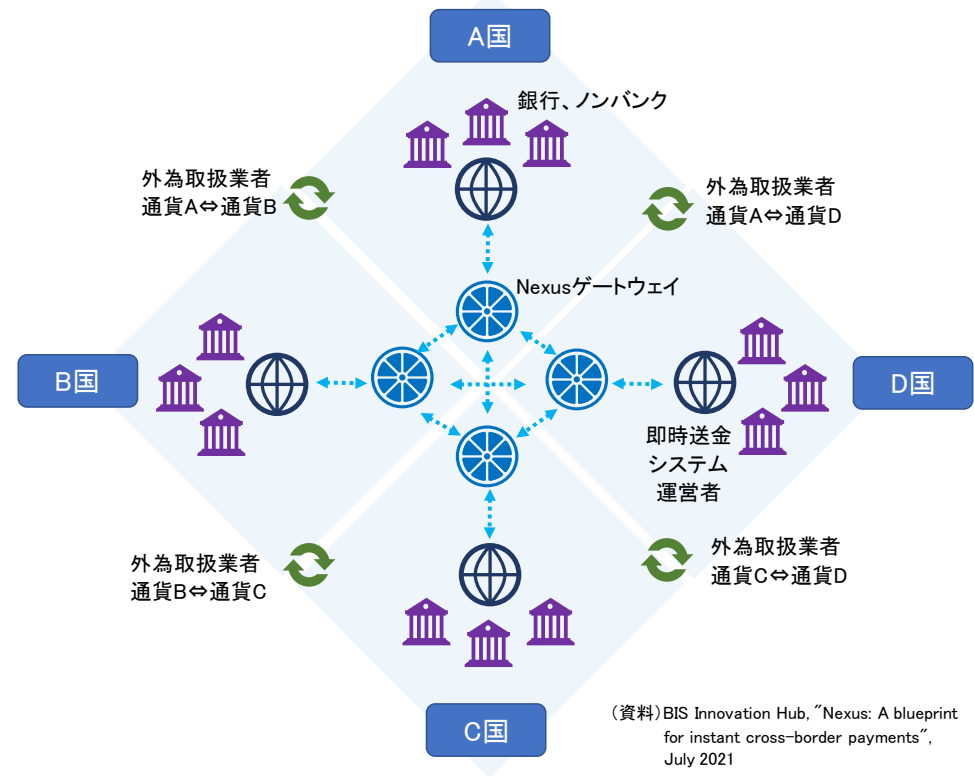
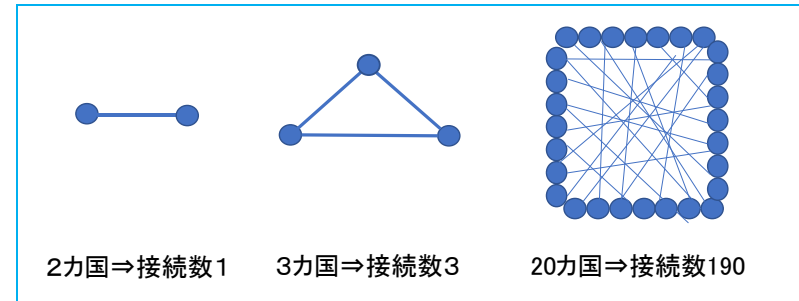
4. Nexusプロジェクト

◆ FPSの相互接続を個別に行っていくのには限界



◆ 多国間の相互接続を容易に行うための仕組み：「Nexus」
(by BIS Innovation Hub Singapore Centre)

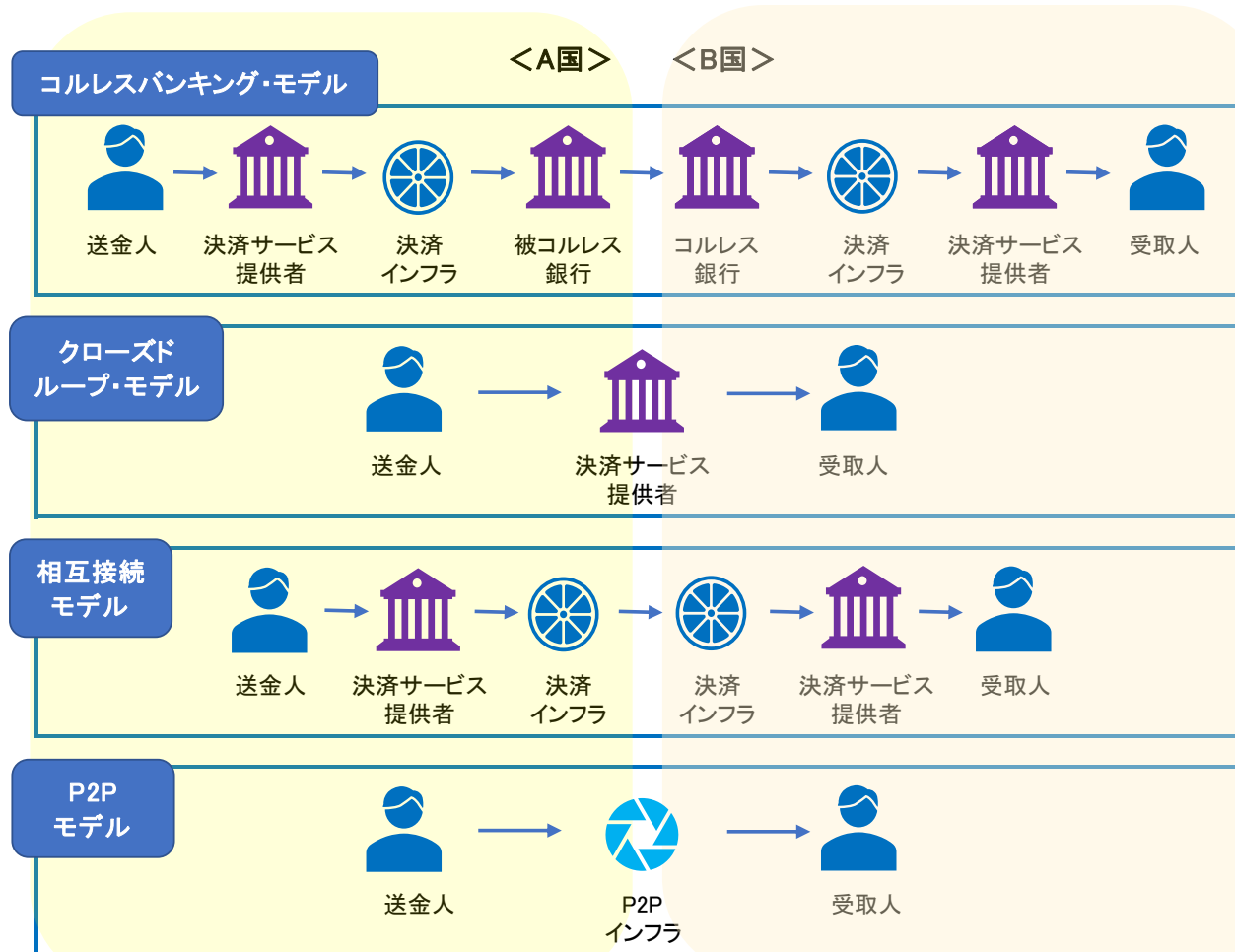
➤ 各国の即時送金システム運営者は Nexusゲートウェイ(ソフトウェア)に接続
⇒ Nexusネットワーク上の複数国と接続可能に
それぞれの国と個別に接続作業を行う必要なし



(資料) BIS Innovation Hub, "Nexus: A blueprint for instant cross-border payments", July 2021

4. Nexusプロジェクト

◆ クロスボーダー決済の主なスキーム



<具体例>

SWIFT

MoneyGram,
Western Union,
Wise, Revolut,
Alipay+

Nexus

CBDC
ステーブルコイン

(資料) Morten Bech, Jenny Hancock, "Innovations in payments", Bank for International Settlements, *BIS Quarterly Review*, March 2020ほか

4. Nexusプロジェクト

- ◆ <フェーズ1> BIS Innovation Hub Singapore Centre、FPSクロスボーダー接続のためのブループリントを公表(2021年)



- ◆ <フェーズ2> 3つのFPSを接続するPoCを実施(2022年)
 - マレーシア(RPP)、シンガポール(FAST)、ユーロシステム(TIPS)
 - 技術的に可能であることが判明
 - 一方で課題も明らかに: 例 サンクションスクリーニング(AML/CTF関連)



- ◆ <フェーズ3> BISIH Singapore Centre、ASEAN5カ国の中銀・決済システム運営者と連携、各国FPSの相互接続へ(2023年～)
 - シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、フィリピン
 - フェーズ1・2で得た知見を活用、モデルをブラッシュアップ

ご清聴ありがとうございました

(株)日本総合研究所 調査部
上席主任研究員 岩崎薫里
iwasaki.kaori@jri.co.jp